

第一日曜日
教会学校 9:00～
主日第一礼拝 9:00～
主日第二礼拝 10:30～

その他の日曜日
教会学校 9:00～
聖書を読む会 9:00～
主日礼拝 10:30～

日本基督教団 麻布南部坂教会月報

2017 (平成29年) 8. 13

牧師 松谷 祐二

〒106-0047 東京都港区南麻布4-5-6 Tel & Fax 03 (3473) 1276
E-mail church@nanbuzaka.com http://www.nanbuzaka.com/

印刷 有限会社 創文社 Tel (3491) 8321

聖書と祈り会
毎週水曜日 10:30～
成人会
第3日曜日 礼拝後
婦人会
第4日曜日 礼拝後
教会附属 南部坂幼稚園

「恵みと平和があるように」

(テサロニケの信徒への手紙一「一」)

牧師 松谷 祐二

テサロニケの信徒への手紙一 第一章一節
パウロ、シルワノ、テモテから、父である神と
主イエス・キリストとに結ばれているテサロニケ
の教会へ。恵みと平和が、あなたがたにあるよう
に。
(新共同訳聖書)

今月号から、テサロニケの信徒への手紙を読ん
でいきたいと思います。

内容に入る前にまず、新約聖書の「手紙」を読
む意味について少し書いておきましょう。新約聖
書の最初には、イエス様のことを直接に伝える四
つの「福音書」、その弟子たちが聖霊に導かれて
伝道していく様子を伝える「使徒言行録」があり
ます。最後には、迫害下の諸教会を励ますために
イエス様が啓示なさったことの記録、「ヨハネの
黙示録」があります。その間に収められているの
はすべて「手紙」で、数は二十一に及びます。

これらの「手紙」は皆、キリスト者からキリス
ト者へ送られた、キリスト教信仰に基づくメッセ
ージです。それも大半は個人宛のプライベートな
手紙ではなく、キリスト教会の信徒たちの集会で
朗読してもらうように、さらには、複数の教会の
集会で回覧してもらうように意図されたものです。

そして、どの「手紙」も、一度読まれたら用済
みの書きものとしては扱われずに、諸教会で繰り
返し朗読され、やがて「新約聖書」を構成する文
書としての位置づけが確定しました。当時やりと
りされたであろう、ありとあらゆる手紙が「聖書」
にされたわけではありません。二十一もあるとはい
え、全体からすればごく一部が厳選されて残りま
した。そうなのは、これらの「手紙」は、書
き手の単なる個人的意見の表明や心情の吐露とし
てではなく、主イエス・キリストが教会の指導者
としてお立になった「使徒」たちの教え、主イエ
ス・キリストご自身の権威に由来する教え、「神

の言葉」として聞かれるべきだと信じられ、受け
入れられたからです。

内容的には、キリスト教の教義をより詳細に展
開し述べたものもあれば、教会の信徒たちが直面
したさまざまな問題について、信仰的な勧め、判
断、指示、警告、訓戒、激励などを書き送ったも
のがあります。そうしたメッセージのやりとりが
しばしばなされ、誤りがあれば軌道修正されるこ
とを、キリスト教会は必要としたのです。初期の
キリスト教会が、キリスト者たちが、どのように
生きていたか、どのように生きてはならないと自
戒していたか、どのようにあるかと努力していた
か、「手紙」を読んでいくと分かります。

そして、これらはただ「昔の教会はこうだった」
という記録ではなく、「今」わたしたちの教会が
どうなっているのか、「今」わたしたちがキリス
ト者としてどう生きるべきなのかを教えるもの
なのです。それをわたしたちに考えさせ、あるいは
反省に、あるいは喜びと感謝に導く。そのため
にこそ、これらの手紙が「聖書」の中に残されて、
今日のわたしたちにも読めるようにと、神は歴史
を導いてくださったのではないのでしょうか。

さて、テサロニケの信徒への手紙一は、マケド
ニア州の港町であったテサロニケの教会の信徒た
ち宛てに、パウロが同労の使徒シルワノ、テモテ
との連名で書いたものです。第一章一節はあいさ
つ文で、パウロが書いた手紙の多くは、こうした
あいさつ文で始まりですが、長い、凝った内容の
ものもあれば、このようにごく短いものもありま
す。専門の学者の方々によれば、テサロニケの信
徒への手紙一は、紀元五〇〇五二年頃、聖書に収
録されたパウロの手紙の中では最も早く書かれた
ものであるということとす。

「テサロニケの教会へ。」に、「父である神と主
イエス・キリストとに結ばれている」という修飾
語句がつけられています。この「に結ばれている」
というのは、新共同訳聖書ではほぼ一貫してそう
訳されている訳語ですが、原語は「エン」、英語
であれば「in」にあたる短い前置詞です。「In
the church of the Thessalonians in God the

Father and the Lord Jesus Christ.」(NKJV)
この「エン」は何と訳したら良いのでしょうか。
「の中に」か、「における」か…。口語訳聖書では
「にある」「にあって」と訳されていました。

パウロはこの「キリストにある」「キリストに
あって」という表現を「このように「父なる
神と主イエス・キリストとにある」と並べて言う
例は珍しいのですが、非常によく使いました。
教会そのものが、宛先である信仰の仲間たちが皆
「父なる神と主イエス・キリストとにある」。父
なる神が主イエス・キリストをお送りくださり、十
字架の死による罪の赦し、復活による永遠の命の
希望、それを明らかにしてくださった救いのみわ
ざ。ひとえにそれに存する。ただそのおかげで、
今ある。父なる神と主イエス・キリストに結ばれ
てこそ息づいている、奇跡的な存在。それが教会
だ。それがキリスト者だ——わたしたちも、あな
たがたも。そんな思いが込められた表現ではない
でしょうか。

あえてごちなく「の中にいる」と訳してみま
しょう。孤独のとき、不安のとき、希望の見えな
いとき、想像してみましよう。言ってみましよう。
「わたしは父なる神と主イエス・キリストの中に
いる者です。」「わたしたちは、父なる神と主イエ
ス・キリストの中にいる者たちです」。父なる神
と主イエス・キリストは、信仰からくる想像力に
よって、わたしたちを「守られている」という安
心感、喜びと感謝に導いてくださるでしょう。

「恵みと平和が、あなたがたにあるように。」こ
れはギリシア人のあいさつ「カイレイン(恵みを
祈ります)」とユダヤ人のあいさつ「シャローム(平
安がありますように)」とを結合したもの、とも
解説されます。そうかもしれません。しかしパウ
ロたちはそこに、一般的なあいさつ以上の思いを
込めていたこととす。 「父なる神と主イエス・
キリストの恵み」、「父なる神と主イエス・キリス
トの平和(平安)」があるように、と。わたした
ちが「父なる神と主イエス・キリストの中にいる」
自らを思い起こすことができれば、もうそこに、
その「恵みと平和」があります。

聖霊がくださったもの

柴田 真由子

ペンテコステ前日の六月三日、遠足に行ってきた。参加者は八名、お台場海浜公園と両国の江戸東京博物館を訪れた。初夏の休日、強い日差しの下で、計画通りには観光は進まず、海辺の木陰で賛美歌を歌い、語り、お弁当を食べ、移動しながら語り、また休憩しながら語るというのが主な内容になりました。少し時間が経って思い返しますと、脳裏に一つ、刻まれたシーンが浮かびました。私の心の目に映された絵です。

お台場海浜公園の木陰で、レジャーシートを敷いて八人が輪になってお弁当を食べています。太陽の光がキラキラと海に照り返して大変明度の高い絵です。八人はお互いに不自然な気負いや浮つきは無い様子。私の日常を切り取れば、もっと分かりやすく人の目を惹く対象も見えています。かと言って、私の記憶に残る訳ではありません。今回、この絵はなかなか離れていかない比重をもっていました。

「主よ、ここまで連れて来てくださったのはあなたですね。」描かれている一人一人を教会に導き、聖霊を与え、人生を揺らし、個人的に関わり、信仰を注ぎ続けてくださっている神さまの情熱を想像します。木陰の輪の中で、それぞれの信仰のスタンスも語り合いました。細かに情報を交換し合う、または、とりあえずの共感を求め合うというよりも、相手の本気に触れて自分の本性が鮮やかに沸くような時間でした。

この絵の作者に言いました。「何一つ、私のアイデアではないです。どうして私は今こうしてここにいますのか。肉眼で見えて考えるほど、私にはいつも理由が無かった。」すると、さらに平安をいただいた気がしました。この平安は、人が欲しくて真似した

としても、自分の力や経験では得られないものだったと思います。

「次はどんな絵を見せてくださるのだろうか。」作者ご自身を知っていることが、本当の希望でした。暗転や当惑に際しても、作者と私の二人きり、その親密な語り合いが描かれた特別な絵にしがみつき続けて、小さな選択を重ねていました。すると、全ての予想を見事にひっくり返し、他に無い圧倒的に美しい絵に仕上げ、驚かせてくださるようになることが、だんだん分かってきました。そして、「神さま、はじめから、あなたには決して、敵わなかったのですね。」と、屈服せざるを得なくなっています。

そのように生活しながら見てきた絵を後から確認しても、やはり、「キリストが私



にくださったキリストの命そのものに及ぶものは何も無かった。」というのが私の感想です。自分の内側も外側にあるものも、結局、どんな力にも止められていなかった聖霊の生きたお働きを、日常のあらゆる事象を用いて、イエスさまが、私に教えてくださいました。

神さまが支配しておられる時間と場所の真ん中で抱えられ、祈りました。「イエスさま、今日も、あなたの美しい絵が見たいです。もっと、もっと。」

報告

*当教会でも代務者、説教者としてお世話になりました内藤留幸牧師が天に召されました。七月三日(月)に前夜の祈り会、七月四日(火)に告別式が松沢教会にて行われました。

*南部坂幼稚園では、七月十一日(火)の終園式、十一月十二日の年長お泊まり会で一学期が終わり、夏休みに入りました。

*高橋優美子神学生は、六月二十二日(土)から八月末まで、西宮一麦教会のほか兵庫地区の四教会で、夏期伝道実習をいたしています。神学生のためにお祈りください。

*七月三十日の特別礼拝では、高承和(コウ スンファ)先生(聖和教会牧師)に説教をしていただきました。

高先生のご略歴：二〇〇六年東京神学大学院終了後、鳥居坂教会担任教師。二〇〇九年より聖和教会主任教師。

*眞野裕子さん(南部坂幼稚園教諭)が受洗を志願され、準備に入られています。お祈りください。

各部報告 七月度

成人会

日時 七月十六日

東京改革長老教会協議会主催 信徒のための講演会に、教会修養会で合流

婦人会

日時 七月二十三日 主日礼拝後
場所 会堂会議室
出席者 七名
開会祈祷 菊池才知子姉
閉会祈祷 各自小祈祷
内容
一、聖書研究「コヘレトの言葉」第六、七、八章 全員で輪読した後、松谷牧師の解説を聞いた。

第六章 神の恩恵によって望んだものすべてを手にした人が、それを享受することになった。太陽の下にゝ見たという表現は世の中に起きていることはわけがわからないという意味。人の労苦は際限がない、賢者が愚者に優るとは限らない。欲望の行き過ぎは虚しい。人が神を越えることはない、神の前に人は何程でもない。人間は儂いものと思うがよい。人間は死ぬものである。幸福とは何かなど誰も知らない。

第七章 賢者も完全であることはできない。知恵ある者とは、人間に終わりがあることを知っている人のこと。完全な人間は存在しない。苦しい女とは、際限のない欲望を追求したがる心のこと、人はよくこの苦しい女に引かかかってしまう。良い女は千人に一人も存在しないほど、貴重である。良い女に例えられるのは、洞察力、知恵のある人。

第八章 一節 知恵は良いものという意味。王とは神のこと、快樂はささやかな楽しみのこと。

二、八月は台所清掃を行い、聖書研究を休会とする。
三、次回聖書研究は「コヘレトの言葉」第九章から第十一章まで。